

山口県

定数：4名

立候補者数：3名



氏名 山本 悟

都道府県士会 山口県

年齢 59

勤務先名称 Y I C リハビリテーション大学校



氏名 水野 博彰

都道府県士会 山口県

年齢 37

勤務先名称 下関市立市民病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

◎役員歴

平成15年度～現在 山口県理学療法士会 理事
平成25年度～現在 山口県理学療法士会 副会長
平成25年度～令和2年度 山口県理学療法士会 学術局長
平成26年度 第28回中国ブロック理学療法士学会 学会長
平成28年度～現在 日本理学療法士協会 代議員
令和4年度～現在 山口県理学療法士会学術誌「理学療法やまぐち」編集委員長

◎立候補の趣旨

私は2003年より山口県理学療法士会の理事・副会長・学術局長を歴任し、士会員の学術活動並びに職能活動推進に尽力して参りました。
現在、理学療法士を取り巻く環境は劇的に変化しており、医療・介護・障害福祉での取り組みはもちろん、災害支援や産業保健・学校保健など新たな社会的ニーズにも応えていかなければなりません。
本土会でも時代の変化に対応できるよう令和6年度より新たな組織体制に移行するとともに、引き続き日本理学療法士協会や他都道府県理学療法士会と連携しながら事業を展開して参ります。
士会員の皆様の声を協会に届け、本会が県民の保健・医療・福祉に貢献できるよう、このたびの代議員選挙に立候補いたします。よろしく願いいたします。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

山口県理学療法士会福利厚生部 部長 (2013.4～2019.4)
山口県理学療法士会下関ブロック定期理学療法研修会 部員 (2013～2019.4)
山口県理学療法士会 学術局理事 (2019.5～)
山口県理学療法士会 I C T 活用推進委員会 副委員長 (2021.4～)
中国ブロック学会評議員 (2021.4～)
理学療法やまぐち 編集委員 (2022.4～)

私は2013年から今日に至るまで、約10年士会事業に携わってまいりました。その10年の間で理学療法士を取り巻く環境や社会情勢は大きく変化してきました。理学療法士の質の向上、職域の拡大、地位向上など、理学療法士がこの多様な社会の中で果たすべき役割についてはまだまだ発展途上で可能性があるのではないかと考えております。
これからの10年、20年と先を見据えた時に、協会の考えを十分理解して、県士会員にも十分理解していただけるような組織づくりが重要であり、尚且つ県士会員の意見を協会に届ける役割はさらに重要であると考えております。私が代議員に当選する事が出来たら、そのつなぎ役としての役割を責任を持って果たして行きたいと考えております。よろしく願いいたします。



氏名 綿谷 昌明

都道府県士会 山口県

年齢 48

勤務先名称 一般社団法人山口県地域リハビリ
テーション支援団体

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

1. 協会・士会役員歴

平成13年度～平成16年度 (社) 山口県理学療法士会 宇部小野田ブロック部長
平成17年度～平成20年度 (社) 山口県理学療法士会 理事 (ブロック局担当)
平成21年度～平成24年度 (社) 山口県理学療法士会 理事 ブロック局長
平成25年度～平成26年度 (社) 山口県理学療法士会 副会長 事務局長
平成26年度～ (一社) 山口県理学療法士会 副会長 事務局長
地域包括ケア推進特別委員会 委員長
平成27年度～ 政策推進委員会 委員長
平成28年度～ (公社) 日本理学療法士協会 代議員

2. 立候補の趣旨

地域包括ケアシステムの深化、2040年の高齢者減少等の社会背景を鑑みると、理学療法士の喫緊の課題として、職能教育、身分保障、職域維持・拡大、組織力強化等があげられ、日本理学療法士協会、都道府県理学療法士会が強く連携し、同じ方向へ向かって取り組む必要があると考える。

職能教育では、卒後教育をはじめとして、リカレント教育や多岐に渡る職域分野での職能研修など、理学療法士の質の担保と社会ニーズに適した事業の推進が必要と考える。また、理学療法士法の改正において、公衆衛生を含めたこれからの職域や働き方に適した法・制度改正の推進が必要であり、そのためにも理学療法士政策を推進すべく、政治活動、ならびに政治力の強化は必須と認識している。これらの施策を実行するためにも、会員、都道府県理学療法士会、日本理学療法士協会の合意形成は必要であり、リテラシー強化のためにも、会員、都道府県理学療法士会、日本理学療法士協会の円滑な連携、協働して事業が実施できるよう尽力する所存であり、引き続き代議員として、機会を与えていただけると幸甚である。